

市民と市長との対話集会（テーマ：移住して感じる上越）

主な意見交換の内容

開催日：令和5年11月28日（火）

会場：市民プラザ 2階 第1会議室

参加者：11人

（参加者）

- ・雪は一つの資源になると思うが、雪に慣れていない県外からの人にとっては、住みにくい部分もある。
- ・良いと言われて来て、こんなはずじゃなかったと言われないように、雪の魅力とネガティブなところをどう発信していくのかがポイントではないか。

（市長）

- ・雪国で暮らすことの苦勞もあるが、雪を知らない人たちから見たら感動に繋がることもある。
- ・もちろん地元で苦勞されていることは承知しているが、雁木町家や農家の住居、冬の間の手仕事、あるいはスキーやスノーボードなど、雪に向き合いながら生きてきた文化は素晴らしいものがあると思うし、それらが忍耐強さや共助精神といった、この地の人の心を育ててきたのではないかと思う。

（参加者）

- ・移住して良かったと感じる一番の理由は、子育てが気兼ねなくできる場所である。
- ・東京で子育てをしていた時は、マンションの下の階からクレームがあったり、交通量が多く外出するのも大変だった。上越市は皆さんが温かく見守ってくれる環境と、道が広くて土地区画も広いので、とても気に入っている。
- ・ファミリーヘルプ保育園、保育園の一時預かり、ファミリーサポートセンター事業、産前産後ヘルパー事業など、様々な支援で支えてもらった。
- ・産前産後ヘルパー事業を使える期間をもう少し延ばしてもらえるとありがたい。

（市長）

- ・財政的には厳しいが、努力する。

（参加者）

- ・仕事の関係で移住でしたが、上越に来ることを決めたのは、行政も含めて人と人が近く感じ、良いまちだと思ったからである。
- ・移住の支援制度が、東京23区からの移住者に偏っていると感じる。
- ・移住者がどのぐらい市に貢献してくれそうかという視点で、支援の内容を決めてもいいのではないか。

（市長）

- ・市に貢献してほしいということで移住を促しているわけではなく、できるだけたくさんの方に住んでいただいて、幸せになっていただければと考えている。
- ・確かに、人と人の繋がりが強いことで地域力が強くなることも考えられるが、行政が貢献度を判断することではないと思う。

(参加者)

- ・実際に住んでみて、雪が降ることで、車の購入・維持費や冬の暖房代など、想像よりも金銭的に多くかかったと感じる。その辺を予備知識としてもっと事前に知っておけたら、準備がスムーズにできたと思う。
- ・観光業に興味を持っているが、通年観光は、国内に向けてか、それとも海外の観光客も見据えてか。

(市長)

- ・通年観光について、オーストラリアや雪の降らない東南アジアの方々にも来ていただきたいので、海外視点で見せるところを作っていかなければいけないと思っている。
- ・ただどうしても、英語対応は必要で、東南アジアでは皆さん話せるように教育していると聞く。日本人は英語が使えるなくても困らない状況があるが、私としてはもっと使えるようにしていかないと、国際的には遅れていくのではと思う。

(参加者)

- ・妙高市はスノーリゾートとして海外から観光客を集めているが、上越市では海外の観光客をほぼ見たことがない。
- ・十数年海外に住んでいた経験から、確かに妙高市にはオーストラリア・欧米系のスキーが好きな観光客が来ると思うが、上越市単体で考えたときに、果たして通年で観光客を呼べるか少し疑問である。

(市長)

- ・11月15日の市議会特別委員会で、現在作成している通年観光計画（中間とりまとめ）について説明をさせていただいた。具体の形にしていくのはこれからになる。

(参加者)

- ・英語教育に力を入れていただくということで、ぜひ実現していただきたい。

(参加者)

- ・ひとり親で仕事もしているので、学校や習い事などの送迎が大変である。子どもが小さいうちはサポートがあるが、中学・高校になるとサポートがないので、その辺をもう少し充実して欲しい。

(市長)

- ・高校・大学、その後の就職など、そのあたりのサポートが少ない部分があると思うので、また少し考えさせてほしい。

(参加者)

- ・子どもが特別支援学校に通っているが、卒業後の進路として事業所の数がすごく少ないので、もう少し充実するとよい。グループホームも少なく感じる。
- ・自分で調べてもなかなか情報にたどり着けないので、情報発信をもっとしてもらえると助かる。

(市長)

- ・グループホームや福祉施設については、人出不足もあり増やしたくても増やせない状況がある。私たちもこの課題を何とかしなければいけないと思っている。
- ・市としても、例えば市役所における職員採用を更に積極的に行えないか、市役所庁舎内の掃除業務において更に担っていただける部分がないかなど、個々の状況にもよるが、就職できる場所としてできるだ

け選択肢があるようにしていかなければいけない。民間の方にも頑張っていただかないといけない。

- ・また、障害の状態によっては、就職するための支援も必要だと思っており、考えていかなければいけない課題である。

(参加者)

- ・自分は、スノーボードが好きで雪を求めて移住してきたので大丈夫だが、ある程度雪が好きな人でないと、移住して長年住むには厳しい地域かもしれない。
- ・また、良い意味でも悪い意味でも地元の人との距離が近く、そのことで地域に溶け込めない移住者も周りには多くいる。
- ・事前に良い部分・悪い部分をしっかりと伝えた上で、ある意味、許容する覚悟を持って移住先として選んでもらう必要があると思う。SNS を使った宣伝告知や情報共有に力を入れていった方が良いと思う。

(市長)

- ・市内でも、地域の繋がりが強いところもあれば、緩やかなところもあると思うので、そういう意味では住む地域をある程度選択していくことも必要かと思う。
- ・それでもやはり地域のつながりは強いと思うので、そのあたりは自分の感覚で選んでいくしかないと思う。

(参加者)

- ・サーフィンやスノーボードをする人たちにとっては本当に天国みたいな場所。そういう人たちに向けて移住のアプローチをすることは考えているか。

(市長)

- ・上越市は、自然もあるし、歴史文化もあるし、食べ物もおいしいし、地域社会も強い。生きるためのすべてが揃っていると思っている。

(参加者)

- ・上越妙高駅近辺で IT 企業を経営している。上越に住みたいと考えている社員も多数いるが、国の制度で東京 23 区に 5 年間居住するか勤務していなければならないという条件がネックになっている。そこを市単独でバックアップしてもらえないか。

(市長)

- ・制度上の問題で移住できないということであれば、国に対して制度を変えてほしい旨の要望することはできる。後で、具体的に担当と相談させてもらう。

(参加者)

- ・雪に関連するランニングコストがプラスアルファでかかるなど、なかなか伝えきれていない部分が多く、そのギャップで戻ってしまう移住者もいる。
- ・移住者の定住という観点では、受入れの段階でそこをうまく周知できるとよいのではないか。

(市長)

- ・移住の際には、良いところばかりではなく、雪国で生活する際の対策などについても示して、対応していかなければならない。

(参加者)

- ・上越のPRポイントは「日本海に沈む夕日」になるのではないかと思う。日本は地理的には太平洋と日本海で半分だが、人口的にはサンライズ側の方が多い。逆に海とサンセットがPRポイントになると思う。

(参加者)

- ・直江津や高田もいいと思うが、大潟区にも目を向けてもらえると嬉しい。海もキャンプ場もあるし、鶴の浜温泉もある。海沿いを歩く遊歩道を作ってはどうか。

(市長)

- ・地域独自の予算を使って、鶴の浜温泉を活性化させていくような事業をやってみてはどうかと、地域協議会や地域の皆さんに問いかけさせてもらっている。非常に期待をしている。温泉組合の方々にもさらに議論をしていただければと思っている。
- ・市が道路整備をしたことで、観光客が増えるわけではなく、観光客が増えるためにやらなくてはならないことは別のところがあるので、そういうところが高まっていくといい。そこに期待をしているので、できればまちおこしに関わっていただけると助かる。

(参加者)

- ・朝市に出店していて、市や出店場所の町内会と盛り上げたいという思いがあるが、まず出店者の人たちが動かないと変わらないと感じた。
- ・以前は正午前に閉店するのは禁止されていたが、今はその決まりがなく、お客さんが来る前に店が閉まっています期待外れという意見もある。市と町内会と定期的に意見交換する場を設けられないか。

(市長)

- ・朝市の通りに居住されている方が、車で出かけられないのでやめて欲しいという意見もある。
- ・様々な町内の意見があるが、地元で作った農産物がたくさん売られている朝市が観光客としては魅力があると思うので、私としてはこれからも続けていただきたい。

(参加者)

- ・どこの地域も、移住者を求めて色々な政策や支援金・助成金を作って、小さい分母をみんなで取り合っている状況である。その中で、上越の良さは、やはり「雪」だと思われ、それ以外にも高田の雁木や直江津にもいいところがあるが、全国に発信するのが上手ではないと感じる。
- ・デザインや広告面で、もう少し政策的に取り組んでいった方がいいと思う。実際私も移住する時、あまり上越の情報がなく自分の足で歩いて情報を得た。
- ・SNSなどもっと効果的に使っているところなどPRできれば、いろいろな人の選択肢に入ってきて、それが移住に繋がると思う。

(市長)

- ・この地域の魅力をうまく伝えるようなことをやっていかなければ、物は高く売れないし外国にも売れない。そういう意味でふるさと納税にも力を入れているが、市全体で商品の価値が上がるようなブランド戦略を作って、人材も育成していかなければいけないと思っている。
- ・これからますます人口が減っていく状況になり、労働者の人口はおそらく足りないと思う。最終的には外国の方も受け入れながらやっていかなければと思う。
- ・外国の方に、上越市に来たら素晴らしい対応をしてもらったと思っていただけるようなまちにして、で

できれば定着していただきたいと思っている。

- ・働く人がいなければまちは発展しないので、いろいろな方が、この上越市に住まう条件を整えていきたい。

(参加者)

- ・上越に戻ってきて、お米と魚と地酒が本当においしいと思った。東京や大阪の百貨店などで上越の物産展を開き、多くの人に知ってもらおうPRをしたらどうか。また、上越食い倒れツアーみたいなものを企画し、米・酒・魚のPRをもっとしていければいいと思う。

(市長)

- ・漫画やドラマにもなった「夏子の酒」に吉川杜氏が出てくるが、吉川高校には醸造科があって全国に杜氏を輩出した。そのような地域がある上越で作られているお酒は、全ておいしいと思う。
- ・棚田でおいしい米が作られ、お酒ができるので、そういう意味でブランディングしていかなければいけない。できればフランスやイタリアの料理とも合わせて、楽しんでもらえるようにしたいと思っている。

(参加者)

- ・移住してから、上越での生活の仕方を一番よく知っているのは、長年、その地域に住んでいるお年寄りやその町内の方々であり、その方々から教えを受けて、私たちが実践して未来に語り継ぐというのが一番いいやり方だと感じた。
- ・ただ、どうしても衝突してしまうので、不動産の管理会社として自分が入り、移住者の方々と町内の方々をつなぐ取組をしている。
- ・賃貸事業もしているが、町内会費は管理会社で払っている。町内の方と交流するのが嫌だという方や、町内のこともやりたいが仕事や子育てで忙しく時間がなく、断るのも角が立つという方が利用している。
- ・町内会の方々とうまく生活していますよとか、町内会の方々がこんな活動していましたよ、というような架け橋的なことをやって、今のところうまくいっている。これをもっと増やしていけたら、移住者の方々や町内の方々の助けになれるのではと思って活動している。

(市長)

- ・私は地域おこしをやっていたので、どちらかというとも60代以上の人たちと話をしながら生きてきた。昔からやっていたことの技術を教えてください、体験させてくださいということをやってきたので、そういう意味では、仲良くやってこられたと思う。
- ・私は農村が好きなので今でも農村に住んでいるが、みんな家族みたいな感じでやっている。それを求めるか求めないかは、選択の余地があると思っている。

(市長)

- ・私も一移住者として発言したところもあるが、上越は本当に素晴らしいところがたくさんあるので、安売りするのではなく、よそから見ての価値あるものを価値ある値段で売っていかなければいけないと思う。
- ・太平洋側では大きな災害が起こる可能性が非常に高い。日本海側には、米もエネルギーも水もある。太平洋側を支えていくということがこれからの一つの強みにもなってくると思っている。
- ・大きな企業の皆さんが、田んぼの体験に来られるが、安定したおいしい米や酒を買っていただければいいと思っている。そのときには、やはりそれなりの価値で買っていただかなければいけないと思ってい

る。

- ・持続可能な社会というのは、まず食べていける力が大事なので、そこをPRしながら、これから子どもや孫ができるだけ幸せになるような社会を作っていきたいと思っている。今後ともよろしく願いたい。